

兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—第5報

島崎 正美¹⁾・島崎 能子²⁾

筆者らは兵庫県加古川市と高砂市で確認できたシルビアシジミの吸蜜植物について報告(島崎, 2015, 2016, 2019, 2020)してきているが, 2021年4月に報告済みのアリアケスミレとは異なる種類のスミレで吸蜜する♂を観察記録(図1)し, 次いで2022年7月にベニバナセンブリでの吸蜜例を観察記録できた. 新たなスミレについてはノジスミレとマスミレとのいずれかで, 2022年10月のノジスミレの開花を待ってその距の形態からマスミレだと同定した. ベニバナセンブリでの吸蜜場面はズームアップ撮影ができないうちに飛ばれたせいで証拠程度の画像記録(図2)となってしまうが, すでに報告をしているヒメジョオン, ブタナおよびオオイヌノフグリについてのより鮮明な吸蜜場面の撮影記録(図3, 4, 5)と合わせて報告する.

筆者らは別途「加古川の蝶: 年間発生状況」についてのまとめを発表(島崎, 2010)していてその後も調査を続けている過程で, シルビアシジミに関しては7月

上-中旬の記録がとれていなく, 今回はその時期の発生状況の確認が目的であった. 吸蜜植物については, これまでの多くがミヤコグサとシロツメクサでの吸蜜例の観察だったが, 高温が続いたせいもあってか7月11-13日の3日間は飛び交うシルビアシジミの多くが次々と花蜜を求める状況で, 上記2種中シロツメクサでは2-3個体が同じ花に蜜を求める様子もみられ, ヒメジョオン, ヒナギキョウ, ブタナなどにも頻度高く訪れる珍しい光



図1 マスミレでの吸蜜 (2021年4月10日, 加古川市).



図2 ベニバナセンブリでの吸蜜 (2022年7月11日, 加古川市).



図3 ヒメジョオンでの吸蜜 (2022年7月12日, 加古川市).



図4 ブタナでの吸蜜 (2022年7月13日, 加古川市).



図5 オオイヌノフグリでの吸蜜 (2021年4月10日, 加古川市).

¹⁾ Masami SHIMAZAKI ; ²⁾ Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市

景を観察できた。この生息地にはあまり多くはないベニバナセンブリの花に立ち寄るそぶりを見せる個体もみたが、実際に吸蜜をしたのは7月11日の1個体だけであった。

今回報告の蜜源を追加した27種を第4報に示した花（特に花芯）の色別分類に再整理すると以下のようになる。

赤系統：アカツメクサ、イヌコウジュ、イヌコモチナデシコ、キツネノマゴ、コマツナギ、ツルボ、ヌスビトハギ、ハナタデ、ヒメハギ、ミゾソバ、ベニバナセンブリ（11種）

黄系統：アメリカセンダングサ、カタバミ、カンサイタンポポ、コメツブウマゴヤシ、ニガナ、ブタナ、ミヤコグサ、ヒメジョオン、ヨメナ（9種）

白系統：アリアケスミレ、オオニシキソウ、シロツメクサ（3種）

青系統：オオイヌノフグリ、ツリガネニンジン、ヒナギキョウ、マスミレ（4種）

加古川市のこの生息地にはマツバウンランが咲く時期もあって、科目は違ってもヒナギキョウに似た感じの花での吸蜜が期待でき、今後も継続的に観察を続ける予定。

○参考文献

- 島崎正美, 2010, 加古川の蝶：年間発生状況。きべりはむし, 32(2), 12-14
- 島崎正美, 2015, 兵庫県におけるシルビアシシミの吸蜜植物。きべりはむし, 38(1), 4-5
- 島崎正美, 2016, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物 - 続報。きべりはむし, 39(1), 17-18
- 島崎正美・島崎能子, 2019, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物 - 第3報。きべりはむし, 42(2), 15-16
- 島崎正美・島崎能子, 2020, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物 - 第4報。きべりはむし, 43(2), 11-12